

これからの時代に期待される鉄道の役割

編集委員会委員

栗田敏寿

KURITA, Toshihisa

ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社代表取締役社長

1. はじめに

少子高齢化が進展し、総人口が国勢調査開始の大正9年以来初めて減少したことが確認された。一方で、東京圏の鉄道輸送量は堅調に推移しているほか、昨今開業した北陸・北海道新幹線の効果は予想を大きく上回っている。また、地方都市もコンパクトシティづくりを基本に身の丈に合った交通モードを導入するなど時代の変化に合わせて健闘している。そこで、今後の総人口減少局面における鉄道輸送の在り方、とりわけ大都市圏輸送及び新幹線輸送に求められる課題と解決策等について、私見を少し述べたい。

2. 鉄道がこれまで果たしてきた役割と主な施策

昭和30年代以降の高度経済成長時代は、線路増設や新線建設・地下鉄網の整備拡大と他路線との相互直通運転といった物理的な施策が中心に行われ、新幹線も昭和48年の整備計画により新幹線網整備がスタートした。その後、着席サービスや直通運転による乗換解消といった快適性や利便性を重視する施策に重心が移り、交通弱者に配慮したバリアフリー化の整備と、耐震補強やホームドア整備といった安全対策にも力を入れている。

新幹線と言えば、整備計画路線は全路線で整備完了または整備に着手している状況であり、昨今は、旅客サービスのため一部区間で320キロ運転を実現しているほか、ソフト面のサービスとしては、PC環境の整備や携帯電話の受信環境改善といった快適な車内空間の実現やWi-Fi環境の整備にも力を入れている。

3. これからの時代に鉄道が果たすべく役割と期待

政府は一億総活躍時代を掲げ様々な政策を打ち出しているが、総人口が減少していく大きな流れは残念ながら今後も続くであろう。単なる労働力の減少だけではなく、専門知識と経験をもった人材が第一線からリタイアしていくこととなる。自動車業界は、水素自動車や自動運転の実用化に向けてその開発スピードを上げている。こうした厳しい環境に晒されている鉄道業界は、同時に利用者のより高いサービス基準の要求にも応えていかなければ、今後とも利用者から選択される輸送機関には決してなれない。

今こそ、鉄道業界全体にわたって生産性を向上し、より付加価値の高いサービスを提供していけるような仕組みを整えるべきであるという観点で、以下に二点ほど提案したい。

(1) IoT&AIの利活用によるシステムチェンジ

列車運行や乗車券の販売システム、自動改札などのシステムは既にハイテク化されており、開発が進められている車両や構造物の状態監視システム等と有機的に繋げ、これらのビッグデータから引き出される有益な利用価値をベースに生産性向上を図ることで人手

不足解消に対応するとともに、気象データや社内外の情報とも連携することで利用者へのきめ細かなサービスを提供することが重要である。つい最近JR東日本が、「IoT」技術や人工知能(AI)を活用した社内外の情報を集約するシステム基盤の整備に着手すると発表した。将来は他の鉄道会社等へも呼びかけてコンソーシアムの設立も視野に入れているとのことであり、鉄道業界全体のブラッシュアップに繋がると期待している。

是非、これらの利活用に関する研究論文や事例紹介が本誌で掲載されることを期待したい。

(2) 観光立国・地方創生へ向けた鉄道の役割と課題

訪日外国人が2016年10月に2,000万人を超えた。総人口が減少していく中でも国際化・観光立国への大きな流れは今後も加速するだろうし、交流人口の増加で都市と地方の活性化に繋がる。

政府は、2030年には6,000万人の目標を定めているが、実現に向けての鉄道の役割は極めて大きく、特に既存の鉄道ネットワークと結ばれる空港アクセス線の整備と広域のかつ速達性と大量輸送を兼ね備えた新幹線の高速化は重要だ。

羽田空港アクセス線については2016年交政審答申でもその必要性がうたわれたものの、整備スキームの在り方については関係者の議論を期待するととどまった。また新幹線に関しては、44年前に定めた設計最高速度260キロを変えずに整備が進められており、青函トンネルでの速度制限といった課題が残っている。

これらの施策を日本の将来に有効な社会インフラ整備と位置づけ早期に課題が解決されることを期待したい。

また、国は国全体の活力を上げる地方創生へも取り組んでおり、2015年春開業の金沢新幹線の効果として観光関連従事者の人手不足や企業・研究所等の進出も進んでいる。まさに新幹線による交流人口の増加が地方創生に繋がった証である。観光需要の掘起しや二次交通への円滑化等更なる関係者間の協働に期待したい。

4. おわりに

総人口が減少していく社会を考えると何となくさみしい気持ちにもなるが、今までと同様に、今後人間の豊かな暮らしに貢献し、人々の心をより豊かにしていくために、鉄道の果たすべき役割と期待は大きい。

彼の国ブータンでは「しあわせ度」なる指標が存在している。この「しあわせ度」を参考に「人々の心の豊かさを推し量る指標を定義づけることができれば、その指標に少しでも近づけるべく努力を鉄道関係者全体で取り組むことで、豊かな心を持った人々が暮らす活力ある日本が実現できるのではなかろうか。そんな国づくりに貢献する鉄道であって欲しいし、なれる可能性は大いにあると考える。